

2025 年 4 月

エフエム宝塚の経緯と現状について～「中長期計画」～

☆開局 25 周年

2000 年 9 月 25 日、FM 宝塚は全国 137 番目のコミュニティラジオとして放送開始しました。当時、正司市長は「市民のラジオ局」として活用される FM 局を目指すことを表明、市民参加型の番組づくりや災害時の緊急放送など、地域に根ざした放送局とならねばならないと提言されました。あれから 25 年、インターネットの急進により、新聞やテレビの優位性は減少しています。しかし、ラジオに関しては、最近の「コロナ禍」以降、聴取率は回復傾向にあります。これはそれぞれにメディアの特性がある証左であり、ラジオに根強い需要があることを示しています。特に、FM 宝塚は聴取率 10%前後（市調査）という他局と比べて高い結果が出ていることは特筆すべきことです。（25 年史）

☆災害情報の発信

近年は IT の普及や防災無線により多様な情報発信が出来るようになりました。だからこそ、重層的な情報伝達手段としてラジオの重要性は増しています。今こそ、防災ラジオの普及など、情報発信の強化すべき時なのではと考えます。

防災ラジオは「割り込み放送」という特性があります。いつでも宝塚市総合防災課から直接に割り込み、避難情報を伝えるという機能で、いざという時に大いに役立ちます。

また、昨今のミサイル情報などは国から「Jアラート」を通じて流されるというシステムが完成しています。これこそコミュニティラジオの持つ最大の特性であり、これを無くしてはならないのではと考えます。

☆歌劇や選挙報道など特色ある番組編成

宝塚は歌劇の街、ラジオ番組として「レビューステーション」など 2 本の歌劇関連番組を放送しています。その他、「宝塚とシャンソンの熱い関係」や「治虫くらぶ」など、宝塚らしい番組作りに努力しています。また、「小学生の作文」や「クラブアワー」など市内の学校取材で根強い支持があります。また、これまで市長選挙、市議員選挙など、事前番組や開票速報を放送してきました。神戸新聞と連携して、投票所での出口調査を行うなど、高い評価を受けています。特に、コロナ禍のなかで選挙活動が大きく制限される中、候補者の公開討論会を連日放送して、結果的に投票率のアップに寄与しました。今後民主主義の根幹である「選挙の啓発」に役立つよう努めます。（番組表）

☆高い制作能力、JCBA 近畿放送賞受賞！

日本コミュニティ放送協議会の近畿地区放送賞を、これまで 35 本受賞しています。

これは近畿地区内 1 位であり（2 位は FM いかの 32 本）、その制作能力の高さを証明しているといえます。現在、FM 宝塚を支える市民を含むスタッフは 100 名前後、パーソ

ナリティやサポーターとして活躍しています。

さらに、市政 60 周年記念の「宝塚 1 万人のラインダンス」や「防災ラジオ de ウォーク」「23 万人の花火大会」など、大型イベントも実施しています。これは「だいすき宝塚異業種交流会」から生まれたもので、普段から商工会議所青年部、宝塚青年会議所と交流している成果です。(JCBA 受賞歴)

☆経営状況について

宝塚市からの委託料については開局以来、ほとんど変わっていません。発足当時こそ、依存率は 6 ～ 7 割を占めていましたが、ここ数年はイベント開発などの営業努力により 50 数%で推移しており、ここ 20 年間は黒字決算となっています。(資料④ 収支表)

当面の目標は売上げ 1 億円以上で、依存率 50%以下をめざしています。その営業活動の一貫として、市民が支える「FM 宝塚 8 3 5 倶楽部」を立ち上げ、発足して 10 年目に目標としていた市民の 1 %である 2,300 名を突破しました。また、多くの法人会員の協力により、毎月プレゼントを贈るなど好評で、シネ・ピピアで月 1 回開催する「映画鑑賞会」を愉しみにする市民・会員が多くいます。(2025 年 4 月現在、登録会員 2,599 名)

2020 年 4 月から情報誌「エフエム宝塚」(6 万部)を発行しています。この広告とラジオ番組をリンクさせるという企画で営業拡大を図っています。これまで「ワンディアル」「てらす」「有馬歯科」「教匠」の各社から紙面とラジオ番組の提供を頂いています。今後は、この企画のさらなる拡充を図るとともに、「特別会員(年会費 1 万円)」及び「25 周年特別 CM(10 本、1 万円)」という企画で売上げの大幅な増加を目指します。

また、開局 25 周年の大型企画も検討中です。

☆アピアホールの運営委託

予選 2 回、決勝 1 回のカラオケ大会である「歌謡選手権」には、宝塚ならではの「シャンソン」「歌劇ソング」部門があり、全国からファンがアピアホールに集まっています。令和 3 年からアピアホールの運営をしています。これまで利用率が低いということもあり、コンサート、発表会、展示会など営業拡大の可能性を期待して受託しました。

「アピア 8 3 5 劇場」など、年間稼動日数は大きく増加していますが、将来的には文化教室も含めて運営する方針であり、これから収益の大きな柱になると期待しています。

☆今後の展望について

現在、送信所やスタジオの更新 11 年計画が進捗中です。

同時に、開局 25 周年企画(16 本)も実施予定です。また、宝塚市からの委託金についても協議中であり、今後も「市民のラジオ局」として存続を図るために何をなすべきか、阪神間 4 局による「FM 阪神構想」も含めて、検討しなければなりません。

今こそ、市民、リスナーとともに「エフエム宝塚のあるべき姿」を考える時です。